

# アンゴラで救援活動へ

## 医師、看護婦ら4人派遣

アジア医師連絡協議会（AMDA、本部・岡山市）は二十日、三十年以上、看護婦らを派遣、難民の帰還定住促進のための緊急救援プロジェクトを開始することを発表した。日本

のNGO（非政府組織）がアンゴラで救援活動を行うのは初めて。

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の要請を受け行われるもので、今月下旬から来月上旬までの間に医師、看護婦ら四人をアンゴラ北部のサンザ・ポンプに派遣。既に調査のため

七月中旬から現地入りしているAMDAの医師らとともに、ザイルなどからの帰還難民の巡回医療などを行い、現地の医療活動の安定をさせ、難民の定住と帰還の促進を図る。

アンゴラでは一九六一年以来、政府と反政府勢力による内戦状態が続き、三十

万人以上が難民として周辺諸国に逃れている。今年五月に政府と反政府勢力アンゴラ全面独立同盟（UNITA）との間で和平に向けての話し合いが始まったものの、内戦により医療が崩壊。風土病である眠り病のまん延などが難民帰還の大きな障害となっている。